

平成29年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立境高等学校
 学校長 田淵 直記

評 価 日	平成30年2月2日（金）	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○評価項目1に関連して、アンケート結果から「自他を大切にすることができた」に生徒はほぼ全員肯定的な回答をしたが、教員は5割と少ないのはなぜか。 ○評価項目2に関連して、アンケート結果から「生徒があなたの授業に興味をわき、理解が深まったように思える」に「あてはまる」と回答した教員が0名は謙遜であっても問題がある。教員の姿勢は生徒に伝染する。授業をもう一度見直す必要がある。 ○評価項目2に関連して、進路について生徒はどの程度の割合で第一志望に進んでいるか。志望以外では続かないのではないか。 ○評価項目3に関連して、学校ホームページの部活動の欄が更新されていない。部活動欄は工夫が足りず、中学校や県民へのPRができていないと心配する。 (2) 説明・公表について ○特になし		○SNS上での生徒間のトラブルが止まないことを教員は指摘している。 ○本指摘を全教員で共有して授業改革を一層すすめる。 ○生徒の進路志望は絶えず変化するが、納得できる進路実現が図れるよう支援・指導している。 ○指摘のとおりである。早急に改善を図りたい。
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○1年次のキャリア教育について、生徒が「興味がない」と考えている企業からも話を聞かせたり、生徒と年齢の近い大人の話を聞かせたりするよう工夫してはどうか。 ○スクールプロジェクトに参加してくれる大学生にボランティア費を支給すれば参加者が増えると思う。		○生徒一人一人が様々な大人の話を聞く機会の設定に努めていきたい。 ○ボランティア費は、大学側に提案してみたい。
3. 取組改善のための提言 ○境港地区で明るく気さくに頑張っている卒業生がいる。このような生徒を続けて育ててほしい。 ○境高校は境港地区から生徒が来なくなったら大変である。よって、地域や地域の小中学校との連携を強化すべきである。例えば、学校周辺清掃を境線の西側や水木しげるロード等に拡大してはどうか。 ○各中学校の生徒数が減少する中、生徒は高校でいきなり大所帯の中に入ることになり、何をすべきかわからないと思う。境港地区の陸上部を手本に、野球部やサッカー部等でも中高合同の練習会開催等の取組をしてみてもどうか。		○校風の「おおらかな明るさとたくましい敢闘精神」を持った生徒を育てるとともに、学校ビジョンに掲げる地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめていきたい。